

和桜

春と言えば桜。京都には数多くの桜の名所があり、その中には京都ならではの風情ある景観や、特有の桜を楽しめるところがあります。今回は、そんな桜の名所をいくつか紹介します。(日和)

ぼくせんじ 墨染寺

通称「桜寺」とも呼ばれるお寺で、境内には墨染^{すみぞめ}の地名の起りと伝えられる墨染桜があります。この桜は平安時代の歌人である上野峯雄^{かみつけのみねお}が、当時の太政大臣藤原基経^{ふじわらのもとつね}（昭宣公^{しょうせん}）の死を悼んで深草の野辺の桜し心あらば今年ばかりは墨染めに咲けと桜に向かって詠んだところ、墨染色に咲くようになったと言われています。

墨染桜は近年植え接ぎを行ったため今年は見られないかもしれませんが、染井吉野や御衣黄^{ごいおう}といった桜が咲き乱れ、風情ある建築物と相まって美しい景観を楽しむことができます。



拝観料：無料
拝観時間：8:00～17:00
アクセス：京阪「墨染駅」から徒歩2分

にんなじ 仁和寺

「御室桜」と呼ばれる仁和寺特有の桜が有名です。他の桜の名所に比べ遅咲きで、1週間ほど遅く満開を迎えます。また、木の高さが低く2～3m程度しかないため、目の高さで桜を楽しむことができます。

江戸時代から親しまれていた桜のようで
仁和寺や足元よりぞ花の雲（春泥）

ねぶさたの春は御室の花よりぞ（与謝蕪村）

など、数多くの「御室桜」に関する俳句が残されており、現在までその美しさが受け継がれています。



拝観料（御殿）：大人500円
拝観時間：3月～11月 9:00～17:00
12月～2月 9:00～16:30
アクセス：嵐電「御室仁和寺駅」から徒歩3分

ひらのじんじゃ 平野神社

平野神社は平野妹背^{ひらのいもせ}、手弱女^{たのやめ}、平野匂^{ひらのにおい}、衣笠^{きぬがさ}、平野撫子^{ひらのなでしこ}、魁^{さきがけ}など多くの桜の品種が発祥した地です。特に魁は非常に早咲きで、この桜が開花すると京都の花見が始まるといわれています。

この神社は平安時代に花山天皇が桜を手植えたことから桜の神社として栄え、江戸時代には公家たちが家の標となる珍しい桜を奉納したと伝えられています。

境内には非常に多くの種類の桜が植えられているため、さまざまな色や形を楽しめるだけでなく、長い期間桜を見ることができます。



拝観料：無料
拝観時間：6:00～17:00
アクセス：市バス「北野白梅町」から徒歩10分